

おおはらぼん



2020年度総会を終えて

事務局長 陶山 幸弘

去る、6月7日（日）、出雲市民会館に於いて、参加者：3名、委任状：163名、議決権行使書：230名、合計396名意思表示を頂き、2020年度の総会を無事終えることができました。この場を借りて感謝申し上げます。

今年度は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染予防の観点から、異例ではあるが、従来の委任状に加え、直接議決権を行使できる「議決権行使書」を発行させて頂き、ご提出を推奨させて頂いた。

また、総会の前後に開催予定であった、研修会や弁当配布などのイベントも中止させて頂いた。

2019年度の事業報告では、新型コロナウイルス感染症の影響で、年度末の研修会・イベントの中止の報告があった。

2020年度の事業計画では、資料の事業計画は、昨年11月の第4回理事会で承認されたものの掲載であって、今後、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、WEB研修会の企画などの代替え案を検討していくことの、説明があった。

事前の質問で、2020年度の会費額についての質問を頂いたが、会長より、「会費は研修会運営のみではなく、法人運営上必要な経費もあり、対面研修会や普及事業に代わる計画を策定予定のため、例年通りの納入をお願いしたい。」との回答があった。

会員の皆様も、長期化する新型コロナウイルスの影響で、公私とも大変な思いをされているかとお察しいたします。県士会理事会としましても、8月に開催予定の理事会で、少しでも会員の皆様のお役にたてるよう、代替え案の審議を行う予定にしております。

引き続き、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和2年度生涯教育部主催研修会と生涯教育システム稼働延期に伴う対応

生涯教育部長 岩本 悠

1. 令和2年度生涯教育部主催研修会

新型コロナウイルス（COVID-19）への士会の対応として、2020年9月末まで従来の形式での研修会を見合わせる事となりました。その為、生涯教育部として、下記の主催研修会の延期又は中止をお伝え致します。

- | | |
|---------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| ●現職者共通・選択研修 | ⇒ 年度末に延期
会場または Web 開催 |
| 共通研修：感染状況によっては、テーマを絞っての開催を検討
選択研修：「身体障害の作業療法」を予定通り検討 | |
| ●臨床実習指導者講習会 | ⇒ 2020年10月、2021年3月予定
会場または web 開催 |
| ●ツナガル教育研修（令和元年度延期分） | ⇒ 今年度中止、来年度検討 |

現職者研修と臨床実習指導者講習会は、協会の生涯教育制度に関わる研修でありますので、実施時期や方法に関して協会の方針に準じて行って参ります。感染状況によっては、現状でお示した上記内容を変更する場合がありますのでご了承下さい。また、協会ではeラーニングシステムを使用した研修会（協会誌2020.5 P4参照）を導入しておりますのでご活用下さい。

2. 新システム稼働延期に伴う対応

既に、士会ブロックメールにて広報しておりますが、現在、新システムが稼働延期の状態となっております。生涯教育部としては、協会より情報があり次第、随時ブロックメールや士会ホームページを利用し皆様に周知を行って参ります。手帳整理に関して、当面は感染対策として郵送での対応とさせていただきます。手帳の郵送を希望される場合は、切手（定型郵便25g以内の場合、84円分）を貼った返信用封筒を同封して、個人負担でお願い致します。郵送される前に必ず、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。また、手帳の基礎ポイント欄に予め、日付と研修会名を記入し郵送して下さい。引き続き、新システムの動向に関して協会ホームページ、協会誌、**ブロックメール**等で、情報をご確認下さい。



②生涯教育制度における各種有効期間の延長についてのお知らせ

新型コロナウイルス感染症対策としての研修会等の中止・延期に伴う生涯教育制度の対応について、以下のとおり有効期間の延長を行うこととなりました。
詳しくは、会員ポータルサイトで確認してください。

対象者：2020年4月30日時点で2020年2月以降が有効期間となっている、基礎研修修了者、認定作業療法士、専門作業療法士
延長期間：1年間
詳細は、協会HPより：http://www.jaotor.jp/yukokikan-encho_covid-19

問い合わせ先：shimanekyouiku@gmail.com

担当：生涯教育部長 岩本 悠

一般社団法人 日本作業療法士協会

2020年度 定時社員総会の開催報告

島根大学医学部附属病院 森脇 繁登

本来であれば、5月30日に日本作業療法士協会事務所にて開催予定でした。しかし、皆さんも日々奮闘しておられる新型コロナウイルスの影響により、今年度は議決権行使書を用いた総会となりました。

日々の臨床業務において協会の取り組み（全国 約6万人の協会会員の仕事）を肌で感じることはできませんが、議案書を一読すると全国の作業療法士が臨床、教育、学術、行政、地域、医療、福祉など、様々な場所で様々な取り組みをされており、そしてみなさん一生懸命に働いておられることが伝わってきます。

当士会も発展的学術団体として、日々奮闘しています。島根県における社会的ニーズを的確に掴みながら、会員の皆さんと一緒に活動していく重要性を改めて感じました。ぜひ会員一人一人が当事者意識を持ち、島根の作業療法士として誇らしく語ることができるよう、より一層に一丸となって取り組んで参りましょう！

以下、総会議案書の要約を原文のまま掲載します。

「今やるべきこと」あるいは「これからやらなければならないこと」の参考になりましたら幸いです。

(2019年度活動の総括)

2019年度は重点活動項目に掲げた「地域包括ケアシステムに寄与する人材の育成体制の確立とその展開」に取り組み、診療報酬改定、台風15号19号等の豪雨災害や新型コロナウイルス感染拡大への対策等、迅速・柔軟な対応が求められた1年であった。

1. 臨床実習指導者講習会の開催

講習会を士会で運営して頂くにあたっては、地域の状況を熟知した3者（都道府県作業療法士会、臨床実習施設と所属会員、学校養成施設）で構成する連絡協議会の設置をお願いしている。臨床実習指導者養成の目標数は15,000人と試算している。新指定規則下での評価実習・総合実習が開催されるまでには確実に受講できるよう取り組んでいく。一人でも多くの会員が参加されるようお願いする。

2. 「協会員＝士会員」への取り組み

協会は、特設委員会を設置して具体的な検討を進めている。多くの士会は、専用の事務所や常勤事務員の雇入れが困難であり、一部の会員に大きな負担がかかっている。

これを少しでも軽減・緩和することが課題であり、士会事務業務の合理化を図り、士会・協会への会費納入や異動等の手続き簡略化を進めていきたい。2021年度の総会で具体的な手順を示す予定である。

3. 各事業の概要

1) 作業療法の学術の発展への取り組み

作業療法の学術発展は、作業療法の地位向上を図る上で必要不可欠である。協会は、会員の地位向上を図るために医療や介護、福祉などで、より多くの作業療法の効果を示し国の政策の中で作業療法士の役割と機能をさらに明示していくことが必要である。しかし、診療報酬改定等の基礎資料となる研究報告は少ない。学術活動のさらなる活発化も踏まえた上で、今後社会に求められる、あるいはそれを先取りする組織的な研究等を行うための体制をつくるべく検討を行っている。

2) 作業療法の技能の向上に関する取り組み

臨床実習指導者講習会の開催は、厚生労働省から高く評価されており、2020年度開催予定の臨床実習指導者実践講習会においては「後援」をいただける予定である。また、MTDLPの普及については、「臨床実習指導者講習会」の講義にもあり、また卒前教育や国家試験にも出題されている。教育・臨床での一層の取り組みの充実をお願いしたい。

3) 作業療法の有効活用の促進に向けた取り組み

今年度は「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムに寄与する作業療法のあり方の提示」について力を入れて取り組んできた。協会内に独自の検討委員会を設置し、日本医師会、日本精神科病院協会等の精神科に関わる主な関係団体より有識者の参加を頂き開催した。精神科作業療法は、未だ病院内での作業療法に留まっている実態が多くある。精神科入院患者の地域移行・地域定着は国が強く進めている。明日からでも、地域移行・地域定着支援についての作業療法を実践してほしい。2020年度は疾患別等の具体的な作業療法を提示するので、関係者におかれてはぜひ参考にして頂ければ幸いである。

4) 作業療法の普及と振興に関する取り組み

ホームページは、協会事業に関するニュースや作業療法関連トピックスの発信を開始した。加えて、会員からの要望もあり全面的なりニューアルの作業を進めている。なお、作業療法の普及にはホームページなどのメディアに関する取り組みは当然行っていくが、6万人以上の会員が新定義に基づく作業療法を国

民に届けることこそ重要である。共に取り組んで参りましょう。

5) 内外関係団体との連携交流に関する取り組み

2024年開催予定のアジア太平洋作業療法学会（APOTC）を誘致すべく準備を進めている。国際化に弾みをつけていきたい。

6) 大規模災害等により被害を受けた人への支援に関する取り組み

今年度は台風19号豪雨災害では、大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（JRAT）の災害対策本部を協会事務局に設置し、関連団体の協力を得て運営した。その昔は「災害は忘れたころにやってくる」と言われていたが、ここ数年は毎年発生しており、平素からの備えを強くお願いしたい。

県士会長コラム

一般社団法人 島根県作業療法士会
会長 小林 央

『作業療法は、人々の健康と幸福を促進するために、医療、保健、福祉、教育、職業などの領域で行われる、作業に焦点を当てた治療、指導、援助である。作業とは、対象となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為を指す。』

2018年5月（社）日本作業療法士協会定時社員総会で新たな作業療法の定義が承認されました。その2年後のいま、新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延から改正新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づき緊急事態宣言が4月に発出され、私たちの生活はそれまでの『あたりまえ』の生活から一変したものとなっています。

私たちの作業療法実践は 作業をすることで健康になるために、人と環境、作業それぞれの側面に働きかけます。近年の震災をはじめとする自然災害、そして今回の感染症によって生ずる人の暮らしの変化を経験し、作業療法士という自分自身が、作業と作業療法の重要性を肌身に感じています。人と触れ合い、言葉を交わすことの大切さ、外出や買い物がもたらす活動や参加の効能はどれほどの大きさであるかを。

私たちだからこそ、今だからこそ、身近な人たちや地域住民の方とともに「作業をすることで健康になる」ことを伝える機会にあるものと認識しています。ご家族や職場での様々な対応に追われるフェーズを経て、少しずつ「新たな生活様式」へと変化することが求められる時代を今、私たちは歩んでいます。地域に潜在するクライアントに対し、皆様の専門性をほんの少し提供いただくことも職能団体が担う役割であることを会員の皆様に申し添え、本稿の会長コラムとさせていただきます。

新型コロナウイルス関連情報

— 作業療法業務における感染対策について —

2020年4月7日に7都府県にて緊急事態宣言が発令され、4月16日には全国へ拡大されました。島根県は4月以降に24名の感染者を認めました。

県内の詳細な感染情報は以下を参考にしてください。

(島根県：島根県における感染状況について)

https://www.pref.shimane.lg.jp/bousai_info/bousai/kikikanri/shingata_taisaku/new_coronavirus_portal.html

これからの第2波あるいは第3波に向けて、会員それぞれの感染対策の徹底は必至です。作業療法対象者だけでなく、我々作業療法士も感染しないよう、より一層注意しなければなりません。

そのためにも、三密を避けることはもちろんですが、手洗い、咳エチケットの徹底はこれまで以上に重要な作業になることでしょう。

このような作業療法業務における感染対策について、日本作業療法士協会のホームページよりダウンロードすることができます。

これからの感染拡大あるいは感染予防に備えて一読されてはいかがでしょうか？

日本作業療法士協会 COVID-19に関して会員の方へのお知らせ

<https://www.jaot.or.jp/covid-19/gyoumu/>

COVID-19（新型コロナウイルス感染症）感染対策

／ 作業療法業務について (Ver.2.1)

一般社団法人 日本作業療法士協会

5. スタッフルームについて

- ・スタッフルームに入れば、まず手洗いまたは手指消毒（一動作、一消毒）
- ・定期的に換気を行う
- ・ミーティング等で3密となる場合の工夫（各部門の管理者のみによる、社会的距離（2m）を保つ、Webで会議をする、必要事項のみSMSで送る等）
- ・スタッフト同士のミニディスカッションが発生する時間帯は、事務作業スタッフが後先して部屋に残し、ディスカッションのスタッフは部屋の外で行う等の工夫
- ・仕事以外の会話は控える
- ・デスクが向かい同士の場合、透明シートなどを吊り下げて仕切る
- ・電話、キーボード、マウス、ポット、ドアノブ、水道、冷蔵庫の取っ手など、共有する全てのものを朝、昼2回消毒する
- ※スタッフのコミュニケーションが減り、ストレスが溜まる傾向があるので、管理者はLINE等で心理的にサポートする

6. 訪問作業療法等について

- ・利用者、作業療法士が互いに感染対策を行い、安全にサービス「継続」させることを共有すること
- ・作業療法士が行っている感染対策の説明をする
- ・利用者に求める感染対策の説明をする（訪問前後での手洗いのための洗面所の利用のお願い、利用者にも可能な限りマスク着用、訪問中の換気、訪問中のお断りなど）
- ・訪問時、感染疑いがある場合、関係者・接触者相談センターや関連機関に連絡する必要があることを確認しておく
- ・換気や身寄りのない利用者を把握しておく（訪問時、利用者に感染疑いがある場合、その後の連携先を確認しておく必要がある）
- ・感染が不安で利用中断を希望される場合の対応（自主申し指帰、家族指導、施設職員への申し送り、定期的な電話やモバイルで状況確認、廃用が疑われる目安を提供など、中断中に心身・生活レベルの低下を起こさない取り組みを行うこと）

<手指衛生>

- ・訪問前後での利用者宅の手洗いのお願いは「外からウイルスを持ち込んでから手洗いをすれば」接触した利用者宅に感染の疑いを持っているから手洗いを「など不安を与えてしまつてはどうかと考え、アルコール消毒のみで終わらせないよう、厚生労働省から配信されているプリントなどを利用しながら訪問前後の手洗いが必要なことを丁寧に伝え、利用者宅で手洗いを行うようにすること
- ・利用者宅で利用されている固形石鹸の保管が不潔な場合があるため、液体石鹸を携帯するようにする（利用者へも固形石鹸の清潔な保管方法や液体せっけんへの変更を丁寧に伝える）
- ・ペーパータオルが携帯できない場合、利用者宅でタオルを共有しないよう、タオルは複数枚携帯しておくことが望ましい（セラト専用用タオルを準備した場合はお借りする）

たすきりしー

介護老人保健施設 ケアセンターかんど

皆さんこんにちは。介護老人保健施設ケアセンターきすきさんよりバトンを頂きましたケアセンターかんどです。私たちは、出雲市にある介護老人保健施設で、入所サービス、短期入所サービス、通所サービスを提供しております。

OTは10名在籍しており、各サービスを通してご利用者の在宅支援に向け日々奮闘しております。また、地域のサロンでの出前リハや地域の文化祭での健康教室などへも積極的に参加しております。

これからも向上心を持ち、良いサービスの提供に努めていきたいと思っております。次はデイケアすずらんさんよろしくお願ひします。



益田地域医療センター 医師会病院

六日市病院さんからご紹介いただきました、益田地域医療センター医師会病院です。当院は作業療法士16名が在籍しており、一般病棟、回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、介護医療院など入院・入所のリハビリに加え、外来リハビリテーションや訪問リハビリテーションに従事しています。

また入院患者さんの家屋環境の調査や院外訓練などを積極的に行い、退院後の生活をよりよくするためサポートを行っております。退院後の生活として、仕事や運転のことなどもサポートするため、介護保険の事業所だけでなく、就労支援や自動車運転に関連する様々な機関と連携しながら日々業務に取り組んでおります。川平法という手技も強みの一つとして、後輩育成をしながらこれからも支援していきたいと思っております。



次はくにさき苑さんよろしくお願ひします。

作業療法フェスタ2020中止のお知らせ

作業療法推進局 事業部長
堀江 利光

先月、新型コロナウイルスへの士会対応について、会員の皆様へメッセージがありました。毎年9月25日「作業療法の日」に向けて開催しております『作業療法フェスタ』につきましても、今年度は中止することと致しましたので、改めてお知らせ致します。

作品展への出展に向けて準備・検討されていた患者様、利用者様、県士会員の皆様にはご迷惑をお掛けすることとなり、大変申し訳ありません。

現在、『人は作業をすることで元気になれる』という作業療法の魅力をお届けするための集合型以外の代替案を検討しております。詳細が決まりましたら、士会ホームページ等でご連絡させていただきます。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



男の料理

～ ジャガイモのチーズ焼き ～

ジャガイモをチーズとあわせて焼いてカリカリの食感になります。

材料

ジャガイモ 300g
とろけるチーズ 100g
油 大さじ1
こしょう 適量



ジャガイモの大きさを変えることで食感が変化します。
小さく切るとカリカリに大きく切るとホクホクとした食感になります。
ぜひ試してみてください♪



作り方

- ①ジャガイモを食べやすい大きさに切り、電子レンジで加熱。
ほくほくしてきたらOK。（レンジの加熱時間は機械によって異なります。
あとでフライパンでも加熱するのである程度火が通って入れれば大丈夫です。
- ②フライパンに油を引き、ジャガイモ、チーズを入れる。蓋をして中火で加熱。
- ③チーズが溶けてきたら返して反対側も焼いていきます。
この時に形を整えておく。
- ④フライパンを揺すって、全体が揺れ動くようなら完成です。
お好みでこしょうをかけて完成！

ジャスミンの ちょっと一言いかしら

「コロナってなんなのよ」

みなさんこんにちは。ジャスミンよ。何年目になるかしら、何周目の連載になるかしら。今年度もよろしく頼むわ。

しかし、コロナ禍やアフターコロナ、with コロナとか何かと息苦しい世の中よね。その閉塞感を払いたくて Stay Home 中にディズニーで食べれるチュロスを再現したわ。ゲーム機の形を模したマスクを手作りしたりもしたわ。もちろん上手くいきません。失敗したわ。余計フラストレーションがたまるわ。ストレスで余計にご飯を食べたわ。太るわ。コロコロよ。Tシャツもピチピチになったわ。

さて、新しい生活様式と言う言葉も流行っております。県士会の会議もリモートで開催されています。ただ私はアプリを使い自宅に居ながら会議に出るという事がいまだに慣れません。自分が発言するときはミュートの解除を忘れない事、常に画面越しで見られていることを忘れない事などなど…。自宅にいて仕事をする事。慣れることはとてもムズカシイ。改めてスイッチの切り替えて大変ね。

さて、今出来る事をやりましょうか。

令和2年7月31日 現在 施設数133 会員数535名

一般社団法人 島根県作業療法士会ニュース 年3回発行

□編集担当 白鹿真之介・岩田竜太・足立貴哉・山崎真悟・高木良大・和久利洋平・長谷川藍・山根結衣・石田敦史
□投稿（400字程度）、提案、情報提供を歓迎します。

発行所 一般社団法人島根県作業療法士会

島根県大田市大田町吉永1428-3 大田市立病院作業療法室内

発行者：小林 央／編集者 岩田竜太・白鹿真之介

印刷：障がい者支援施設 授産センターよつば（〒690-0131 松江市打出町43）